

共用品推進機構だより 2016年08月26日(21)

目次

(102) 共用品推進機構関連記事

- ▽「リウマチ治療 新薬次々」
- ▽「共用品が広げる新たな可能性／星川安之」
- ▽「障害者以外にも便利な製品」

(103) 製品関連記事

- ▽「持ち上げ楽なコードレス掃除機／東芝ライフスタイル」

(104) 新刊紹介

- ▽『発達障害の子の脳を育てる忍者遊び 柳沢運動プログラムを活用して』
- ▽『発達障害うちの子、人づきあいだいじょーぶ！？』
- ▽『自閉症とこどもの心の研究』
- ▽『色弱の子どもがわかる本 家庭・保育園・学校でできるサポート術』

(102) 共用品推進機構関連記事

▼「リウマチ治療 新薬次々」

機構の評議員である長谷川三枝子氏のコメントが掲載されました。

関節リウマチの治療で生物学的製剤と呼ばれる新薬を使う人が増えている。関節の破壊を抑え、生活の質(QOL)の改善効果が期待できるが、薬代が高額で、経済的負担が大きくなるのが患者の悩みだ。

毎月の医療費の自己負担は、検査代なども合わせ保険適用(3割負担)で5万円前後。患者団体「日本リウマチ友の会」の10年の調査では、回答者9046人中3142人が使い、うち36%は「医療費負担が大きく、生活を切り詰めている」と答えた。

所得に応じた自己負担の限度額を超えた分の払い戻しが受けられる「高額療養費制度」を利用する人もいるが、「限度額でも負担が重く、薬の使用をあきらめている人がいる」と長谷川三枝子会長は指摘する。

(朝日新聞 8月24日31面より抜粋)

▼「共用品が広げる新たな可能性／星川安之」

「ライター」「温水洗浄便座」「電動歯ブラシ」に共通していることがあります。それは、3つともはじめは身体が不自由な人のために開発された点です。

ライターは、戦争で片手を失った人が片手でも煙草に火が点けられるようにと開発されました。

また温水洗浄便座は、アメリカで肢体不自由の人のために開発され、TOTOが輸入し施設等に導入していたところ、周りの障害のない人も使いはじめ、今では最初は障害者専用の福祉機器だったと知っている人は少数と思われま

す。さらに電動歯ブラシも、アメリカのオプティバ社という会社が手の不自由な人のために開発しましたが、それだけだと少量しか売れないと考え、富裕層にも対象を広げたところ、今ではフィリップス社、ブラウン社、パナソニック社によって大きく売り上げを伸ばす商品に成長すると共に、多くの人の歯の寿命を伸ばすことにも多大なる貢献をしています。

このような障害の有無にかかわらず便利に使える製品を、日本では「共用品」と名付け、その市場は3兆円近くに達し、既に一大産業になっています。

この共用品、日本から国際標準化機構(ISO)にその普及のためのガイドの作成を提案し、2001年に日本主導で制定されているのです。

(月刊トイジャーナル 2016年8月号より抜粋)

▼「障害者以外にも便利な製品」

ほとんどのシャンプーのボトルには、側面にギザギザがついています。リンスにはありません。触ればどちらがシャンプーかわかる工夫です。もともとは視覚障害者のために考えられたアイデア。でも、ほかの人にも便利です。

障害がある人のために専用の製品を作るのではなく、一般的に売られる製品に工夫をすることで、誰もが使いやすくした製品を「共用品」または「アクセシブルデザイン製品」などと呼びます。障害がない人にとっても便利なのが特徴です。

共用品推進機構の森川美和さんによると、90年代に入り、おもちゃや家電、日用品など、さまざまな業界の人が集まって、誰にでも使いやすい製品づくりのアイデアを出し合う試みが始まりました。

メーカーごとに取り組みがバラバラだと困るので、業界ごとにルールを統一しています。しかし、必ずこうした工夫をしなくてはならないわけではありません。森川さんは「これらはすべて、『誰もが使いやすいように』という思いやりの工夫です。日本では、『やらなくてはならない』と法律で決まっているわけでもないのに、各メーカーが自主的にやっています。それなのに、これほど取り組みが広がっているのは、世界に誇れます」と話しています。

「触ってわかる工夫」は、ほかにも身の回りにたくさんあります。ぜひ探してみてください。

(毎日小学生新聞 8月14日より抜粋)

(103) 製品関連記事

▼「持ち上げ楽なコードレス掃除機／東芝ライフスタイル」

東芝ライフスタイルは、本体を持ち上げる際に手の負担を軽くしたコードレスサイクロン掃除機「トルネオ・ヴィ・コードレス (VC-CL1300)」を9月下旬に販売する。従来機種と比べ重心の位置を約6cmハンドルに近くし、手にかかる荷重を約30%軽減している。

本体やパワーヘッドに軽量で丈夫なグラスファイバーを採用することによって、標準質量1.9kgを実現。グリップの湾曲を緩やかにするなど、持ちやすさを追求した。

(日経産業新聞 8月24日12面より抜粋)

(104) 新刊紹介

▼『発達障害の子の脳を育てる忍者遊び 柳沢運動プログラムを活用して』

やる気がぐんぐん伸びる、社会性が身につく、体の感覚が鍛えられる！「伝

言じゃんけん」「手裏剣よけ」といった集団のできる運動遊びから、家庭で取り組みやすいものまで、発達のかたよりが改善する忍者遊びを紹介する。

監修：柳澤弘樹（やなぎさわ・ひろき）

発行：講談社

本体価格：1300 円（税別）

ISBN：978-4-06-259850-7

▼『発達障害うちの子、人づきあいだいじょーぶ！？』

発達障害の人は、なぜ人間関係でつまづくのか？多数の当事者と専門家への取材をもとに、その現状から解決策、支援機関の活動まで、マンガでレポートする。

著：かなしろにゃんこ。（かなしろ・にゃんこ）

発行：講談社

本体価格：1400 円（税別）

ISBN：978-4-06-259715-9

▼『自閉症とこどもの心の研究』

自閉症はどういう障害か。自閉症研究の歴史や、心の発達、精神医学と関連領域などについて論じる。自閉症という障害の本質を把握する論理がわかる一冊。『人権と教育』掲載をもとに単行本化。

著：黒川新二（くろかわ・しんじ）

発行：社会評論社

本体価格：1800 円（税別）

ISBN：978-4-7845-1728-2

▼『色弱の子どもがわかる本 家庭・保育園・学校でできるサポート術』

靴下の色を間違えて履く、サッカーの試合でユニフォームの色が区別できない、地図上の「現在地」がみつけれない…。幼児から中学生までの色盲・色弱・色覚異常に関する相談を取り上げ、対応策をコミックでわかりやすく解説。

原案：カラーユニバーサルデザイン機構

コミック：福井若恵（ふくい・わかえ）

発行：かもがわ出版

本体価格：1480 円（税別）

ISBN：978-4-7803-0852-5

（編集後記）

海外の空港から出国するとき、荷物は手荷物検査を通過して出てきましたが、係員が私の荷物に入っていたチューブを触りながらじっと見ていました。

「歯みがき？」と聞くので「はい」と答えたところ、すぐに返してくれました。

そのチューブには「歯みがき」を表す英単語が書かれていませんでした。どおりで、係員がくるくるとチューブを持ち替えて、何かを探すように見ていたはずですが、最近、外国人にも分かるように日本語に英語が併記されているようですが、インバウンド（この言葉もここ数年で、頻繁に使われるようになりました）が、歯みがきと洗顔クリームを間違えて購入しないよう、製品名の英語表記も必要だと思いました。

インバウンド：海外から日本へ来る観光客のことを意味していて、インバウンドツーリズムを略してインバウンドというようです。（金丸淳子）

共用品推進機構公式サイト <http://www.kyoyohin.org/>

共用品ニュース（ブログ） <http://www.kyoyohin-news.org/>